

# 園長だより NO67



コロナ渦の中、東京オリンピックは開催しました。その開催をめぐるいろいろな議論が飛び交いました。世界的な流行で1年の延期、その間にも感染の拡大、多くの犠牲者を出し続けています。開会式も祝祭ムードはなく、今まで行われた華やかな近代五輪とはかけ離れたものでありました。

私自身、昭和の東京五輪の開催年に生まれたこともあり今回の東京五輪開催にはいつもの五輪とは異なった心情を抱いていた。

五輪の開催有無については特に言及しませんが、今、行われている五輪が様々な議論の中での結果と言うこととなります。

東京の1日の感染者数は3177名(7/28)となり増加の一途をたどり県内の緊急事態宣言発令も秒読み段階です。なんとか、これから先、感染者を減らし医療体制のひっ迫を軽減することに力を注いでいただき、少しでも明るい兆しが差し込める世の中にと願うばかりであります。

## 子ども達からみたオリンピック

商業五輪とも言われ多くの利権が絡んでいる。子ども達はそんな視点では五輪を見ていない。現在の子ども達はどうか？ それぞれの幸福度が増し何不自由なく手に入る世の中になっている。テレビにかじりついて五輪観戦とはいかないだろう、大人もそれほど熱狂して入れこんだ

応援をしているようにも思えません。

これからの話は遠い昔話です。オリンピックが開催される年に子どもの遊びでは、必ず「オリンピックごっこ」が行われていた。

1992年(平成4年)バルセロナで行われた大会で当時14歳の中学生、岩崎恭子さんが平泳ぎで金メダルをとる「今まで生きてきた中で一番幸せ」というコメントが印象に残っています。

当時、私が働いていた幼稚園の子ども達(5歳児)はその姿を遊びの中に再現していた。中学生の女の子が金メダルを獲得したことが子ども達はより身近に感じたのか夢中になっていた。

保育室の中にプールをつくる。水色のシートを敷き、水の感じを出すために画用紙や紙テープなどを切り、ちぎり、まるめ、ビニールシートに敷き詰めていく、当時の会場を再現しようと椅子を並べ観客席をつくる。スタートの台をつくる。画用紙に数字を書き並べ電光掲示板をつくる。そして表彰台までつくる手の込みようであった。ほんの数分の映像からこんなにも鮮明に頭に刻みこんでいるのかと驚いたものであった。

ただそれだけではない。メダルをつくり、競泳者の水着やゴーグルまで作っていた。子ども達なりに感じたことを再現しようと取り組んでいました。

いざレース、水の中ではなくビニールシートの中で泳ぐマネをする、はたから見ると、

滑稽にみえる。溺れ、もがいているようにもみえる、なんとか泳ぐマネをして数メートル先のゴールを目指し勝敗をつけるものである。当然、子ども達の中から審判員役もでている。観戦者はレース中、ごひいき(仲良し)の友達を応援する。かなり激しい応援合戦となる。当然、それぞれが応援の旗も作っている。

何が子ども達をそこまで夢中にさせていたのであろうか、

その数年後のアテネでの北島康介の金メダル獲得の時も「オリンピックごっこ」は行われていた。

水泳にスポットをあてていますが陸上や柔道も子ども達のあそびの中で盛んにごっこあそびとして取り入れられていました。

## なんで夢中になったのか 模倣すること

一緒にみている大人がワクワクしながら映像をみている。時には大きな歓声を上げ、喜んだり、悔しがったり、子どもにはその大人の行為が十分と理解できないが、ただ事ではない、何か特別なことだと思い、一緒にみていたに違いありません。大人が喜び「すごい」「やったー」と声をあげる。そんな姿から自分達にない「すぐれたもの」を模倣することで自らに取り込もうとした。当時スイミングに通っている子は数名いたが水泳(競泳)の世界など知る子はいない。子ども達は模倣することで未知の世界に踏み込んでいった。

経験したことの無い世界に踏み込んでいき模倣(再現)することで新たな世界に出会っている。

たかが遊び、大げさに言っていると思う方もいるでしょう。



子どもの世界は何気ない遊びでも自分の世界を広げている。自分を発見することができる自分を意識し新しい世界に踏み込んだと喜びであふれる。「まだまだできるよ」という宣言でもあるのです。

しばらく続いたオリンピックごっこも子ども達の「やりきった」思いから徐々にフェードアウトしていきます。

その経験や体験が子ども達の根っこを作っていきます。ごっこあそび(模倣)は子ども達、それぞれの創造とは無縁ではありません。新しく生み出そうとするその底にはそれぞれの子の生活経験や遊び体験が根っことして行き渡り、新しいものを生み出す源になるのです。

時代の背景は昔とは異なり、東京五輪後にオリンピックごっこが行われるとは言えません。

ただ子ども達にとって今、盛んに取り上げられている五輪が子ども達の学びにつながるいい機会になると思っています。

( 園長 廣部 信隆 )